

■ -----
「TICAD VI in Nairobi: スマート・ドナーとして何を発信するのか？」
の開催について（ご案内）
----- ■

- ・ 日 時：平成28年2月12日（金）16：00～18：00
- ・ 場 所：独立行政法人国際協力機構研究所（国際協力機構市ヶ谷ビル）
（〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5）
- ・ 主 催：地域研究委員会国際地域開発研究分科会
- ・ 共 催：独立行政法人国際協力機構（JICA）
- ・ 開催趣旨：

途上国経済を効果的に発展させる開発戦略に関しては、いまだわからないところが大きい。そのために、開発援助の世界は地図もないまま行先もわからずに漂流を続けている感がある。そうした現状を打破するために、日本学術会議では、地域研究委員会・国際地域開発研究分科会（委員長：大塚啓二郎）を中心に、効果的な開発戦略・国際的支援のあり方について議論を重ねてきた。

2016年夏にTICAD VIがナイロビで開催されるというタイミングをとらえ、学術会議側の研究者の見解を提示し、民間企業、JICA、外務省の担当者と意見を交わしたいと考え、公開シンポジウムを企画することにした。このシンポジウムを通じて産官学の連携を強め、効果的な国際協力に向けた日本からの発信につなげたい。

- ・ 次 第：

司 会：黒崎 卓（日本学術会議連携会員、一橋大学経済研究所教授）

【パネル討論会】

- 研究者の視点から（16：00～16：50）
 - ・ 園部 哲史（日本学術会議連携会員、政策研究大学院大学政策研究科教授）
Kaizenマネジメントの評価と発展方向
 - ・ 浦田 秀次郎（日本学術会議連携会員、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）
Kaizenから直接投資までの支援のパッケージを

・大塚 啓二郎（日本学術会議第一部会員、政策研究大学院大学政策研究科教授）
CARD（アフリカ稲作振興のための共同体）の現状と課題

・不破 信彦（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）
SHEP（小規模園芸農民組織強化計画）の意義と発展方向

●実践的立場から（16：50～17：25）

・藤森 義明（公益社団法人経済同友会幹事、経済連携委員会委員長、LIXILグループ
取締役代表執行役社長兼CEO）

民間企業の視点から

・丸山 則夫（外務省アフリカ部部長）

外務省はこう考える

・北岡 伸一（JICA理事長）

JICAはこう考える

●一般討論（17：25～18：00）

【参加無料・入場自由・事前申込不要】

【問合せ先】

地域研究委員会国際地域開発研究分科会委員長 大塚 啓二郎

E-Mail：otsuka@grips.ac.jp

TEL：03-6439-6228（政策研究大学院大学）

★-----☆

日本学術会議では、Twitterを用いて情報を発信しております。

アカウントは、@scj_info です。

日本学術会議広報のTwitterのページはこちらから

http://twitter.com/scj_info

学術情報誌『学術の動向』最新号はこちらから

<http://www.h4.dion.ne.jp/~jssf/text/doukousp/index.html>
